

日本内分泌病理学会理事会 議事録

日時：2009年4月25日（土）12:15～13:30

場所：前橋商工会議所 3F 常議員会室

出席者：佐野壽昭理事長、長村義之、覚道健一、井上金治、成瀬光栄、
加藤良平、高野加寿恵、笹野公伸 の各理事、吉本勝彦監事、
屋代 隆 オブザーバー

欠席者：高見博（委任状有）、寺本明（委任状有）の各理事、山下裕人監事

議題：

<審議事項>

1. 第15回（2011年度、内分泌学ウイーク）学術集会会長選出の件
2. 定款（会則）改訂および関連内規制定の件
・名誉会員および功労評議員の権利の明確化
3. 学術集会時の会長校による入会受付及び年会費徴収について

<報告事項>

1. 第13回（2009年度）学術集会の準備状況
2. 第14回（2010年度）学術集会の予告
3. 第83回（2010年）日本内分泌学会学術総会のプログラムについて
4. 第85回（2012年）日本内分泌学会学術総会のプログラム委員について
5. ICE2010における主催サテライトシンポジウムについて
6. EPSについて
7. 学術集会抄録のJST（科学技術振興機構）への提供について
8. 悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針作成について：
・厚生労働省難治性疾患克服事業として実施予定
9. 会費納入状況について
10. その他
(1) 事務局担当者交代について

冒頭、佐野理事長より、理事出席者数は委任状提出者を含め10名全員となり、定款第16条の定足数（ $2/3=7$ 名）を満たすので、本理事会は成立する旨の説明があった。引き続き、同理事長の司会により、予定された議題について議事が行われた。

<審議事項>

1. 第15回(2011年度、内分泌学ウイーク)学術集会会長選出の件

- ・はじめに、屋代オブザーバーより、参加呼びかけ学会の準備状況について説明され、神経内分泌学会及び比較内分泌学会は参加を決定、生殖内分泌学会は保留との報告があった。参加呼びかけ学会を増やしてはどうかとの意見があった一方、最初の試みなのでむしろ広げない方が良いとの意見もあった。
- ・次いで、会長選出に移り、専門分野・年齢・開催地域等を考慮した意見交換の結果、山田正三評議員(虎の門病院)を会長候補者に選出し、評議員会・総会に推薦することとした。

2. 定款(会則)改訂および関連内規制定の件

- ・成瀬理事より、一昨年度功勞評議員制度が発足したが、名誉会員との権利区別が明確でなかったことから、会則(定款)の一部を下記(1)のように改訂するとともに、関連内規を下記(2)のように制定することが提案され、それぞれ承認された。秋の評議員会・総会に諮り承認を得て発効させることとした。

(1) 会則(定款)の改訂

改訂案(新)	現行(旧)
<p>第7条 名誉会員は本会の目的に関して特に功績のあった者で、理事会で推薦し、評議員会、<u>総会</u>の承認を得て決定する。</p> <p>2. 名誉会員は<u>年会費及び学術総会参加費</u>は免除される。<u>他の権利は別途内規に定める。</u></p>	<p>第7条 名誉会員は本会の目的に関して特に功績のあった者で、理事会で推薦し、評議員会の承認を得て決定し、<u>総会に報告</u>する。</p> <p>2. 名誉会員は<u>一般会員と同等の資格および権利を有するが会費</u>は免除される。</p>
<p>第17条 3. 評議員は満65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。</p> <p>4. 功勞評議員は前項により任期を終了した評議員で、本学会活動への貢献の著しい者の中から評議員の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会、総会の承認を得るものとする。任期は定めず、<u>年会費は免除され、他の権利は別途内規に定める。</u></p>	<p>第17条 3. 評議員は満65歳の誕生日を迎えた後の学術集会時の総会の日をもって任期を終了する。</p> <p>4. 功勞評議員は前項により任期を終了した評議員で、本学会活動への貢献の著しい者の中から評議員の推薦に基づき、理事長が理事会に諮り、評議員会、総会の承認を得るものとする。任期は定めず、権利は別途内規に定める。</p>

(2) 名誉会員及び功労評議員の権利に関する内規

・両会員の権利は下表の通りとする。

	名誉会員	功労評議員
年会費	免除	免除
学術総会参加費	免除	要
評議員会	オブザーバーとして出席	オブザーバーとして出席
総 会	オブザーバーとして出席	オブザーバーとして出席
新評議員推薦	可	可
学術総会発表	可	可

3. 学術集会時の会長校による入会受付及び年会費徴収について

・佐野理事長より、学術集会時に会長校が入会受付及び年会費徴収に協力してはどうかとの提案が行われた。これに対し、加藤会長から、現金を扱うので徴収業務が煩雑にならないという条件のもとで窓口として協力するとの発言があり、できるだけ簡素な方法を事務局と協議することとした。

<報告事項>

1. 第13回(2009年度)学術集会の準備状況

・加藤会長より、下記の開催概要が示された。また、詳細案内を近日中にホームページに掲載するとの予告があり、学術集会への協力及び参加要請が行われた。なお、理事会は前日の10月23日(金)夕刻に行われる。

日程：2009年10月24日(土)・25日(日)

会場：山梨大学甲府キャンパス 総合研究棟1階(Y号館)

(注意：医学部キャンパスではない)

演題提出締め切り日：2009年7月31日(金)

問い合わせ先：第13回日本内分秘病理学会学術総会 運営事務局

山梨大学大学院 医学工学総合研究部 人体病理学講座内

担当：近藤哲夫、河野嘉代子

TEL: 055-273-9529 FAX:055-273-9534

e-mail: jeps2009@med.yamanashi.ac.jp

- ・同じく、表彰はアブストラクトに基づいて経歴(CV)・業績(publication等)を加味して審査を行いたいとの意向が示され了承された。
- ・同じく、時間を有効に使うため、評議員会及び総会を合同で開催したいとの意向が示されたが、定款第19条「評議員会は年1回、総会に先立って、理事長が召集する」に抵触するので、会長と理事長で協議して工夫することとした。

2. 第14回(2010年度)学術集会の予告

- ・成瀬会長より、2010年10月22日(金)・23日(土)または29日(金)・30日(土)に開催を予定しているとの予告があった。

[事後記載：日程2010年10月29日(金)・30日(土)、会場メルパルク京都に決定した。]

3. 第83回(2010年)日本内分泌学会学術総会のプログラムについて

- ・成瀬理事より、内分泌病理学会関連のテーマとして、下記の(1)(2)が採用されたことが報告された。また、プログラム委員会において、「ICE2010会期中に開催されるJESシンポジウムの外国人演者・座長は、ICE2010招聘者を原則とする」とされているが、本学会からの「逆提案も可」とされたので、下記(3)を提案したことが報告され了承された。

(1) 教育講演(2010年3月26日、日本語使用)

- ・下垂体細胞の分化と腫瘍発生(演者：長村義之)

(2) クリニカルアワー(2010年3月26日、日本語使用)

- ・二次性高血圧症の臨床[原発性アルドステロン症を含む]
(提案者：北村和雄、成瀬光栄)
- ・悪性内分泌腫瘍の診断と治療(提案者：長村義之、山下俊一)

(3) JESシンポジウム(ICE2010会期中、英語使用)

タイトル: Molecular aspects of thyroid carcinomas, update

演者候補

1) Prof Shioko Kimura,

Endocrinology Section, National Cancer Institute, National Institutes of Health, USA) topics: Stem cells in thyroid carcinomas.

2) Prof Ryouhei Katoh, Department of Pathology, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan

topics: TTF-1 and its function in thyroid carcinogenesis.

3) Prof Ronald Ghossein,

Department of Pathology, Memorial, Sloan-Kettering Cancer Center, New York, USA

topics: Is distinction between papillary carcinoma and follicular carcinoma valid? Special emphasis on molecular characterization of encapsulated follicular variant of papillary carcinoma

4) Prof Manuel Sobrinho Simoes, IPATIMUP, University of Port, Port, Portugal

topics: Molecular aspects of thyroid carcinogenesis, update

座長候補

1) Prof M Sobrinho Simoes,

IPATIMUP, University of Port , Port, Portugal

2) Prof K Kakudo,

Wakayama Medical University, Wakayama, Japan

4. 第 85 回 (2012 年) 日本内分泌学会学術総会のプログラム委員について

- ・佐野理事長より、内分泌病理学会代表委員として吉本勝彦監事を推薦し、日本内分泌学会理事会において承認されたことが報告された。自動的に、第 86 回 (2013 年) のプログラム委員も務めることになる。

5. ICE2010 における主催サテライトシンポジウムについて

- ・佐野理事長及び長村理事より、2010 年 3 月 30 日に京都でサテライトシンポジウム(会長:長村理事)を開催するとの報告があった。外国人演者は ICE2010 招聘者から選出することとし、必要な経費は秋の理事会・評議員会・総会に諮り承認を得ることとした。また、サテライトシンポジウムのプログラムについては、覚道理事が案を作成することになった。

6. EPS について

- ・覚道理事より、2010 年の Washington D.C.USCAP において companion meeting の会長を務めることになったとの報告があり、支援・参加の要請が行われた。

7. 学術集会抄録の JST (科学技術振興機構) への提供について

- ・井上理事より、昨年 JST から学術集会抄録冊子を電子的に保存し公開したいとの申し入れがあり、理事長と協議の上、抄録冊子を提供したことが報告された。今後もこれを継続するため、会長は抄録冊子 2 部を事務局に送付し事務局から JST へ 1 部提供することとした。

8. 悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針作成について :

- ・成瀬理事より、標記に関し厚生労働省難治性疾患克服事業として科研費が交付されることになったとの説明があり、実施にあたっては本学会の後援とすることが了承された。

9. 会費納入状況について

- ・事務局より、2007 年度は 66%、2008 年度は 61%であったことが報告され、まもなく実施する 2009 年度の会費請求にあたっては、昨年度及び一昨年度の

督促を同時に行うとの説明があり、了承された。

10. その他

- ・事務局から、退職した和田好子に代わって、伊佐潤子が本学会の事務局業務を担当する旨報告した。岸は従来通りサポートする。

伊佐潤子アドレス： isaj-naibunpi@ion.ocn.ne.jp

以上

(記録：事務局・岸、佐野理事長・成瀬庶務理事校閲済み)